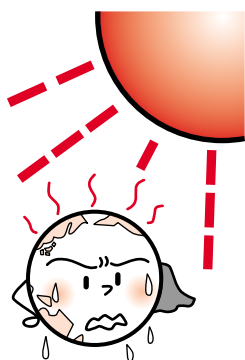




地球温暖化

地球は太陽からのエネルギーを受けて温まり、余分な熱を宇宙に逃して温度を保っています。しかし人間の活動によって、温度を調節していた「温室効果ガス」が増えすぎ、地球に熱がたまり、少しずつ温度が上がってきています。

地球温暖化で、陸地の水没、食糧不足、野生生物の絶滅、異常気象、病気の増加が心配されます（本紙12月15日号をご覧ください）。

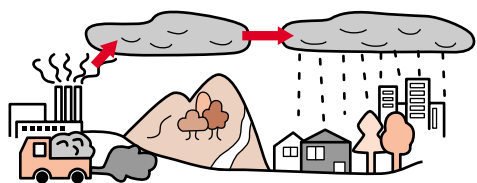


地球は泣いています

酸性雨

酸性雨とは、工場や車の排気ガスから生まれた物質が雨に溶け込んで、強い酸性となった雨のことです。酸性雨は風によって移動するので、周りの国にも被害が広がってしまいます。

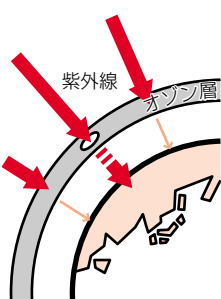
酸性雨が降ると、森林が枯れたり、川や湖にすむ生物が死んだり、建物や銅像などが溶けたりします。



オゾン層の破壊

地球の10～50km上空には、オゾン層という層があり、太陽からの有害な紫外線を吸収してくれています。しかし、このオゾン層が、人間が使ったフロンガスなどによって壊されています。

オゾン層が壊れると、地表に届く紫外線の量が増え、皮膚がんや白内障などの病気にかかることが心配されます。ほかの動物や植物の生育にも悪い影響が出ることになります。



野生生物種の減少

地球は、いろいろな種類の生物がいることによって豊かな自然環境を作ってきました。しかし、野生生物がすめる場所がうばわれたり、汚されたりして絶滅する生物が急激に増えています。一度絶滅してしまうと、2度とその種類に出会うことはできません。現在、1年間に約4万種の生物が絶滅しています。



わたしたちが暮らしている地球は、いろいろな生き物が暮らす美しい星です。それぞれの生き物は、お互いにバランスを保って豊かな自然環境をつくってきました。

ところが、最近になって地球の様子が急激に変わってきています。地球温暖化やオゾン層の破壊など地球環境問題といわれる深刻な問題が起きています。このままだと、ほかの動物や植物ばかりでなく人間も滅んでしまつかもれません。

わたしたちの暮らしが便利になる一方で、地球に負担をかけているのです。一人ひとりの行動の積み重ねで、地球環境問題にブレーキをかけることができます。地球に負担をかけるくない生活を送ることが大切です。

現在、市では、環境基本計画の策定をしています。皆さんも地球環境問題について、家族で考えてみてください。

地球が今、病気に



地球環境問題には、上記以外にも次のようなものがあります。

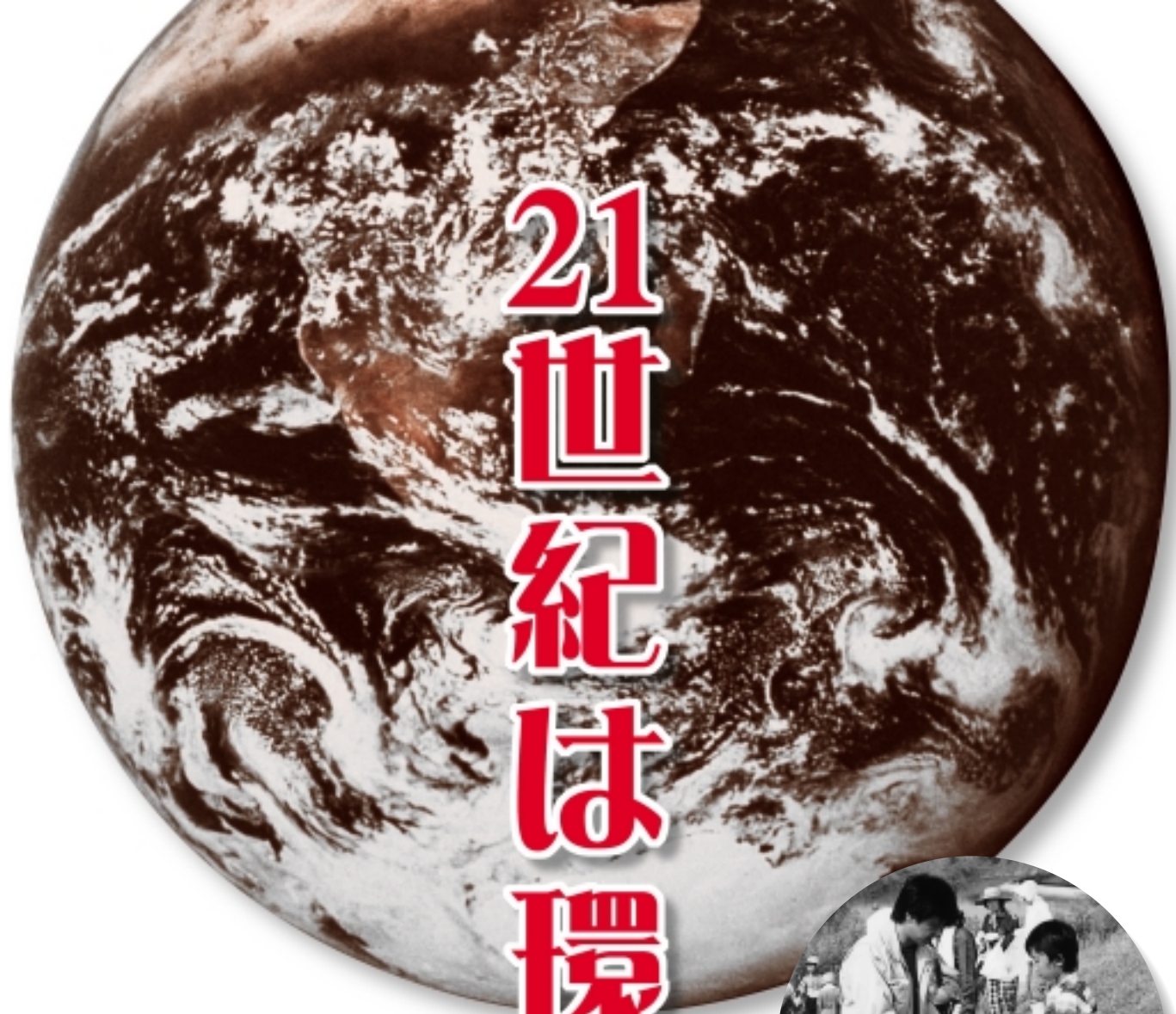
世界中で毎日4～5秒ほどの森がなくなっている「森林の減少」。多くの動植物がすむ森林は、二酸化炭素を吸収し、酸素をつくっています。

先進国の有害なごみをほかの国へ持っていく「有害廃棄物の越境移動」。ごみを受け入れた国で自然環境に悪い影響が出ています。

工場や家庭から汚れた水やプラスチックごみなどが海に流れ込んだり、船から油が流れ出たりすることによって海が汚れる「海洋汚染」。飲み水や魚・貝類の汚染が人体へ影響を与えます。

途上国の急速な工業化や都市化によっておきた「途上国の公害問題」。陸地の4分の1にあたる3600万平方メートルで進行する「砂漠化」。世界の人口の6分の1（約9億人）が影響を受けています。将来地球が温暖化した場合、多くの土地で今より乾燥が進むと予測されています。

これらの問題に対し、わたしたちの生活を見直すことで、地球の負担を少なくすることができます。



21世紀は環境の世紀





アイドリング・ストップ



地球温暖化の原因
にもなっています

車内の余分な荷物は下ろして



重量が増えると
燃費が悪くなります

冷蔵庫はつめすぎない



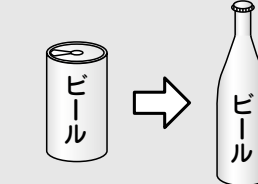
冷気の循環が悪くなり
電気を余分に消費する
ことになります

買い物袋を持参する



商品の過剰包装も
断りましょう

容器はリターナブルなものを選ぶ



ビールは缶より
びんを選びましょ
う

環境家計簿をつける



環境安全課と各地区
公民館で配付しています

電化製品は省エネルギー型のものを選ぶ



家計の節約と二酸化炭素
の削減にもなります

トイレットペーパーやティッシュペーパーは再生紙使用のものを選ぶ



森林資源の保護に
つながります

相乗りや公共交通機関または自転車を利用する

地球温暖化に
ブレーキをかけます



スイッチはこまめに切る



家計の節約と二酸化
炭素の削減にも
なります

家庭などでごみを燃やすのはやめましょう



きちんと分別して、
指定袋でごみステ
ーションに出しましょ
う

歯磨きはコップ1杯の水で



節約に心がけましょ
う

生活を見直しませんか

地球にやさしい生活（エコライフ）の例です。これを機会に、省エネ・環境保全に対して、身近なところから取り組んでみませんか。

Q 省エネ・環境に対する取り組みは

	心がけている人の割合
ごみの分別	97.4%
こまめにスイッチを切る	88.5%
効率的な暖房機器の使用	85.3%
歯みがき時などの節水	82.2%
調理油などを流さない	80.3%
洗濯時の節水	71.1%
生ごみの減量	70.0%
リサイクル商品の使用	63.7%
アイドリング・ストップなど	56.6%
使い捨て商品を買わない	56.1%
買い物袋の持参	28.2%

ごみの分別は、かなり普及していますが、買い物袋の持参はあまり行われていません。

Q 省エネ・環境に対する事業所の取り組みは

	安城市	金属製企業
分別・リサイクル	44.6%	75.1%
紙の使用量削減	60.4%	69.1%
再生紙の使用	50.4%	67.3%
廃棄物の減量化	51.8%	69.3%

業種別に見ると、製造業では全国水準、非製造業では全国水準以下となっています。 ※全国値は「平成10年環境にやさしい企業行動調査」から

アンケート概要

一般市民アンケート

実施期間 : 平成11年11月～平成12年1月
対象者 : 20歳～80歳の男女
調査票数 : 2,000票
有効回答数 : 1,359票 (回収率: 68.0%)

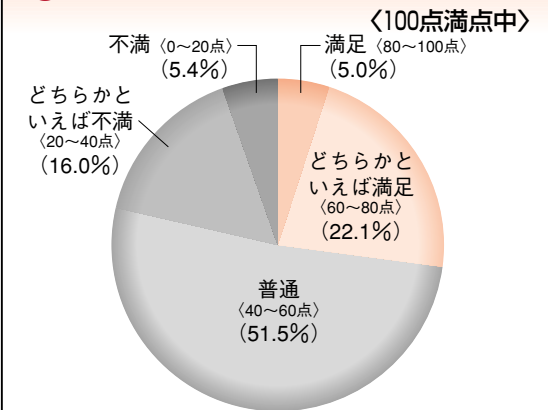
若年層アンケート

実施期間 : 平成11年12月～平成12年2月
対象者 : 各中学校2年生の1クラス
調査票数 : 306票 (回収率: 100%)

事業所アンケート

実施期間 : 平成12年2月～3月
調査票数 : 200票
有効回答数 : 139票 (回収率: 64.7%)

Q 家の周りの「自然環境」の総合評価は

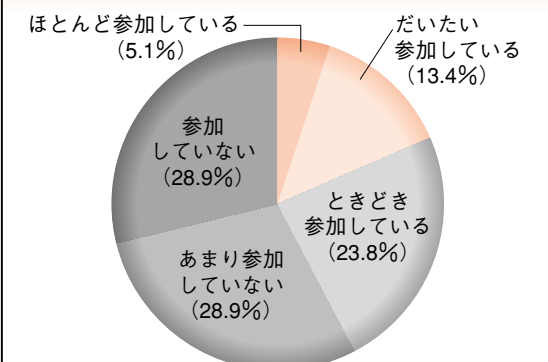


Q 項目別満足度は

	一般市民	中学生
空気・大気のきれいさ	55.5%	48.4%
川・水辺のきれいさ	42.0%	36.5%
静けさ (車などの騒音に対して)	49.6%	42.9%
におい (悪臭などが無い)	51.9%	50.7%
土のきれいさ・沈下などが無い	57.2%	57.7%
全体	51.0%	48.2%

「川・水辺のきれいさ」の満足度が比較的低いことがうかがえます。一般市民よりも中学生の方が危機感をもっています。

Q 環境保全活動への参加は



環境保全活動は市民の約6割が「あまり参加していない」「参加していない」と答えています。他方では、市民の6割以上が、環境保全活動のための「環境問題に関する情報」を必要としています。

市民アンケート結果

このアンケートは「安城市環境基本計画」の策定に際し、市民に環境に対する意向などの把握を目的として実施しました。結果の一部を紹介します。



斎藤昌代さん（朝日町）

平成11年に明治用水土地改良区の呼びかけで組織された「水辺の会」会員。自然小公園作りを手掛ける。また、グリーンコンシューマークラブ安城の一員としても活動中。

わたしたちの声が反映されて
うれしかったです

篠目町童子地内を流れる明治用水の水を利用した親水広場「水の駅・童子さらさら川」が完成しました。篠目桜・ほたるの会、明治用水緑道と水利用協議会、水辺の会が中心となり、だれでも気軽に立ち寄れる水

自分のことから
はじめよう——
そう考えて動き始めて
いる人がいます。
その中の2人にお話を
うかがいました。

広報に載っていた募集記事がたまたま目に入ったんです。「ふれあいアークアスクエア（田んぼと水路を使った自然小公園）」を作ろうという趣旨だったんですが、これだと思いついたね。公的な機関から市民に呼びかけがあったのがうれしかったです。もともと環境保護に興味があったので、これに乗らない手はないと思いました。計画段階から手作りで作り上げていけることにすごく興味をそそられたんです。

水の駅を作るために、いろいろな

辺空間を作ろうと話し合いを重ねてきました。そして記念すべき初代駅長に斎藤さんが選ばれました。

インタ
ビュー
環境を
考える

杉浦さんは、昭和57年に消費者の立場で生活を考える団体「安城エプロン会」の創設にかかわり、様々な問題に取り組んできました。当時、食品添加物などの問題がクローズアップされ、食生活を考える

行政まかせから市民主導へ
発想の転換が必要ですね

ことから始まった活動ですが、昭和60年ごろから徐々に環境問題への興味がふくらんでいったようです。

川の水の汚れを勉強する過程で、廃油から石けんを作る方法を学び、その普及活動に取り組むようになりました。ぬるま湯で溶かせば、汗や油汚れにすぐ効果がありません。今でも、10人以上集まればどこへでも出前指導に行きます。

ごみのポイ捨ても大きな問題になっていましたので、空き缶回収もありました。でも、その当時は缶にアルミやスチールの表示がなく、分別にすぐ手間がかかりました。それで、缶飲料を製造する大企業や通産



杉浦ひろ子さん（末広町）

主婦がエプロン掛けで気軽に来られるようにと作られた消費者団体「安城エプロン会」代表を務める。市環境基本計画市民会議の消費者団体代表メンバーとしても活動中。

省に、表示を付けるように要望書を送ったんです。熱意が通じたのか、その後すぐに表示されるようになったんですよ。小さな力でも大きなものを動かすことができるんだなと実感しました。

昨年組織された市環境基本計画市民会議の一員として、計画策定にも力を貸していただいています。

行政と市民が一緒になって考えることができる場ができたことが本当にうれしいです。今までは行政側から言われたことをただ守っていればよかったかもしれませんが、これからは自分たちで考え、行動できる自立した消費者にならなければ。地球規模で考えることは難しいけれど、自分たちのまちをつくるという視点で考えれば、できることはたくさんあるんです。

可燃ごみの約60%は家庭から出ている。不用品を再利用し、食材を



中学校で廃油石けん作りを指導

資料を取り寄せて勉強しました。名古屋市天白区のふれあいパークにお話を聞きに行ったこともありましたが、地元、地元の石材屋さんや建設業者さんなども得意分野で知恵や労力を出し合うことで、ここまで作りあげることができました。貴重な水を使わせていただき、水と触れあえる空間になってほしいという願いを込めて「水の駅」と名付けました。

ほたる水路、田んぼや小川を備えた手作りの自然広場。昨年12月3日には通水式が行われ、れんげの種まきや蛍の幼虫のえさになるカワナナの放流が行われました。

この水の駅のいいところは、「完成されていない」ということです。利用者様が様々な意見を出し、利用者自らが公園作りに参加する。そんな場所になればと思っています。

この近くには小学校もあります。学校の教材としてぜひ使ってほしい



ほたる水路で遊ぶ子どもたち



リサイクルフェアでの不用品バザー

無駄なく使うだけで、かなりごみを少なくすることが出来ます。「わたしはやってもどうしようもない」から「わたしだけでも気をつけよう」に変えていくことが大切なんです。

また、環境教育も最近では学校で取り組むようになりましたが、やはり基本は家庭にあると思うんです。子どもは素直です。親がその時期に愛情を持って、いろいろなことを学ばせることが最高の環境教育だと思います。

「まだまだ知りたいことがいっぱいあります。今できることは何でもチャレンジしておきたいんです。私は欲が深いですから」と笑う杉浦さん。「循環バスを利用して、月に1回ぐらいいは市街地ノーカデーを設けてみたらどうかしら。また、マイバツク運動を全市的に広げて、将来はマイバツクサミットを安城で開催できたらいいですね」と夢を語ってくれました。



親子で田んぼにれんげの種まき

ですね。さつまいもや赤米、黒米を植える計画もあるので、子どもたちの手が入るといいです。

水の駅は、まだ産声をあげたばかり。これからどう管理し、どう活用していくかが大切です。皆さん、どうかこの公園をかわいがってあげてください。

グリーンコンシューマークラブ安城のメンバーとしても活動中です。

ライフスタイルを見直し、環境に配慮した商品を選択するなど、主体的に行動することにより、循環型社会を作っていく運動を進めています。「合成洗剤を使わない」「買い物袋を持参する」などできることから始めることが大切だと思います。

7歳と4歳の2人の子を持つお母さん。「子どもたちも水の駅作りを手伝ってくれたんですよ」と話す優しい笑顔が印象的でした。



新しい世紀の循環型 社会の構築に向けて

「環境基本計画を
策定しています」
「安城市環境基本計画」は、
市民・事業者・市が一体と
なって行動する計画です。

計画策定の趣旨

この計画は、安城市の環境の保全
あるいはその創造を目指したさまざ
まな施策や取り組みを、総合的かつ
計画的に推進して、環境への負荷の
少ない快適な生活環境を実現するた
め、市民・事業者・市が一体となっ
て取り組むべき地球にやさしいまち
づくりの基本的事項を定めるもの
です。

計画の位置づけ

この計画は、まちづくりの基本指
針となる「第6次安城市総合計画」
を環境面から支援し、今後の環境政
策の基本となるものです。このため
市の各種計画及び施策は、本計画の
目標などと整合が図られるとともに
さらに、市民・事業者・市が公平な
役割分担のもと連携、協力してい
くうえでの指針となるものです。

計画の期間

この計画は、長期的視野にたっ
て、20年後の平成32年（2020年）
を目標年度とします。なお施策など
については定期的に見直しを行い、
社会情勢の変化や科学技術の進歩な
どに対応した計画とします。

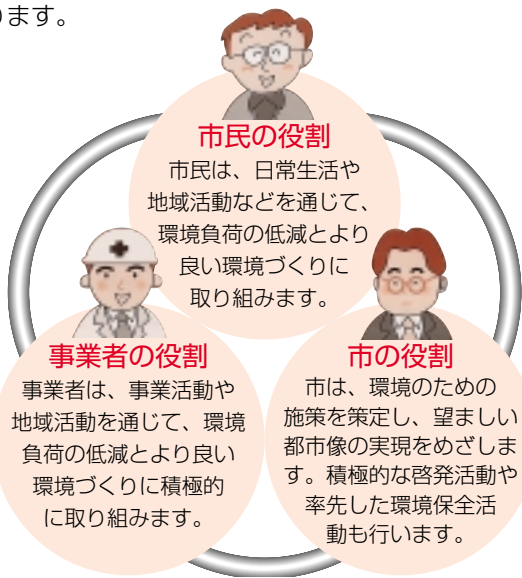
計画の策定

公募による市民と環境にかかわる
各種団体からの推薦者で構成する環
境基本計画市民会議、学識者や諸団
体などの代表者で構成する環境保全
対策協議会及び市役所内の組織によ
り、今まで計画素案づくりを進めて
きました。
また、広く市民の声を反映させる

市民・事業者・市の パートナーシップ

3者の役割

「安城市環境基本計画」は、市民・事業者・市が一
体となって行動する計画です。より良い環境を守り
育てていくためには、3者のパートナーシップの形
成と、それぞれの役割に応じた行動をとる必要があ
ります。

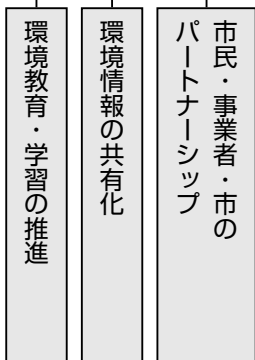


やさしい環境先進都市をめざして

スローガン 地球に

協働

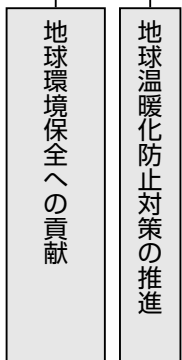
みんなが参加し、考
え、行動するまち



- ◆良好なパートナーシップの形成
- ◆市域を越えた広域的連携の強化
- ◆環境問題に関する意識啓発の推進
- ◆それぞれの主体間における環境情報交換の活性化
- ◆環境学習拠点の整備と機会の充実
- ◆環境学習の積極的推進

地球環境

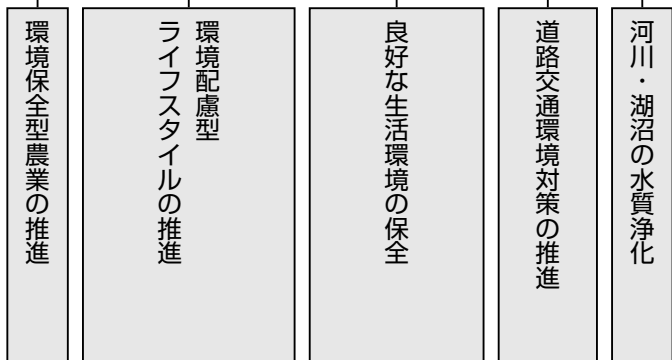
自ら進んで
地球環境を
守るまち



- ◆エネルギー消費量の削減
- ◆新エネルギー・未利用エネルギーの活用推進
- ◆酸性雨・オゾン層破壊の防止
- ◆熱帯林の減少と砂漠化の進行の防止
- ◆環境配慮型公共工事の推進

循環

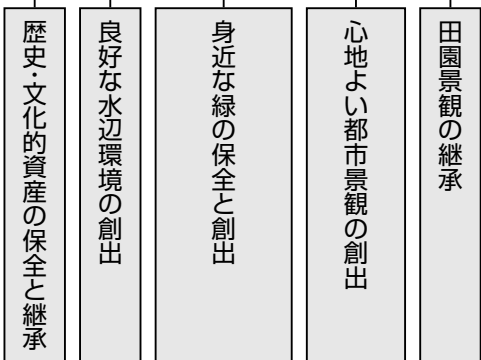
健康で快適な暮らしを未来に引き継ぐまち



- ◆生活排水対策推進などによる公共用水域の水質保全
- ◆下水道整備及び合併浄化槽の整備の推進
- ◆交通騒音や振動に対する継続的調査の実施
- ◆自動車使用頻度の削減による環境負荷の軽減
- ◆沿道の騒音・振動対策の推進
- ◆大気環境汚染と悪臭発生の防止
- ◆土壌汚染の防止
- ◆有害化学物質などの管理徹底
- ◆すべての人にやさしいまちの整備
- ◆浸水・洪水対策の実施
- ◆グリーン購入の推進
- ◆ごみの減量化の実施
- ◆リサイクルを定着させ、リサイクル率を向上させるシステムの構築
- ◆ごみの適正な処理の徹底
- ◆環境保全型農業の推進
- ◆環境保全型農業で生産された農産物のブランド化

共生

かがやく水の恵みをうけて花と緑の
あふれるまち



- ◆田園景観の保全
- ◆農村環境整備と市街地との交流の推進
- ◆公園や広場などの市民が憩う場の整備
- ◆気軽に安心して歩ける道及びその周辺の整備
- ◆美しい街並みの創出
- ◆市域に残された自然林や境内林、公園などを拠点とした緑のネットワーク化の推進
- ◆社寺の古木などの代表的な緑の保全
- ◆緑を身近に感じられる場の創出
- ◆動植物に配慮した水辺環境の保全と改善
- ◆市民が親しむことができる水辺の整備
- ◆伝統的文化的の継承と歴史文化的環境資源の保存
- ◆歴史文化施設整備の充実とその活用促進

望ましい都市像

環境目標

基本施策

計画素案

ご参加ください

安城市環境基本計画について
市民の意見をきく会



とき▶1月14日(日)午後1時～4時
ところ▶市民会館大会議室 ※託児（無
料、当日受け付け）、手話通訳・OHP
あります。

- I 全体会**（1時～1時35分）
計画策定の経緯・内容説明
II 分科会（1時40分～3時）
①共生→水辺・緑・生きもの・景観
②循環→食べもの・乗りもの・ライフ
スタイル ③地球環境→温暖化防止・
海外の状況 ④協働→パートナーシ
ップ・情報の共有・教育・学習 ※興味
のある会に参加してください。
III 全体会（3時10分～4時）
分科会の報告

ご意見・ご提言をお聴かせください

皆さんから幅広くご意見をいた
き、皆さんの声が反映された計画づ
くりを努めていきます。

問い合わせ・あて先▶環境安全課

(〒446・8501) 安城市桜町18・
23 / FAX (〒446・1112) へ ※「環境

安全課あて」と明記してください。
Eメール anjo-h@synet.or.jp
※安城市のホームページ「望遠郷」
にも掲載しています。ホームペー
ジ URL <http://www.city.anjo.aichi.jp/>